



新着任静岡地本副本部長がラジオに出演



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は4月23日（木）、エフエムしみずのラジオ番組「自衛T・I・M・E・S★静岡」に、4月に着任したばかりの新副本部長・大串秀樹防衛事務官が出演した。

この番組は、自衛隊のイベント情報や自衛官の採用情報のほか、現役自衛隊員の生の声を通して、自衛隊への理解や親しみをより一層深めてもらおうと、毎週水曜日午前10時から約10分間放送されているもので、今年で12年目を迎える長寿番組。収録はいつも同ラジオ局内のスタジオで行われているが、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今回は電話での出演となった。

大串新副本部長は、着任の挨拶の後、生まれ故郷でもある神奈川県横須賀市にある防衛大学校で会計課経理室長として勤務していた時の業務について説明。いつも明るく元気なパーソナリティーの三輪祐子氏から、初めて勤務する静岡県で行ってみたい場所などを聞かれると「駿府城、久能山東照宮、日本平、それに三保の松原などに行ってみたいです。また、清水港や焼津港の近くでおいしい魚を食べたい」と、四季折々の自然や歴史、高い伝統文化にふれ、新鮮で多彩な食材を食べ尽くす野望を紹介しつつも、現在新型コロナウイルスの影響で外出は控えているため、住居近くのスーパーと通勤のための経路しか歩いていない現状を少し寂し気に語った。

最後に今後の目標を聞かれると、「静岡のより多くの方々に自衛隊の魅力を知ってもらいたい。隊員たちをより身近に感じてもらうよう奮起したい」と、今後の勤務に対する意欲を力強く訴えた。

静岡地本は、今後もあらゆるマスメディア媒体への取り組みを推進し、身近な自衛隊を広報して静岡県民とともに歩んでいく。

「新しい生活様式」を取り入れた静岡募集案内所



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）の静岡募集案内所（静岡市）は、「新しい生活様式」としてさまざまな施策に取り組んでいる。

これは国が示した新型コロナウイルス感染症対策の一端に基づき、所員の出勤前の検温の徹底からはじまり、マスクの装着、定期的なうがい・手洗い・アルコール消毒を実施し、自分を守ることはもちろん、周囲への配慮を日々徹底している。そして、案内所へ安心して来所してもらえるように、来訪者のマスクとアルコール消毒液の用意、対面時の飛沫を防止するためのビニールカーテンの設置、室内の換気を実施し、密閉・密集・密接の3密防止を徹底している。

また、基地祭などの各種イベントが中止される中でも、自衛隊の情報を発信する手段の一つとして、事務所の外壁に新たにデジタルサイネージを設置。

普段目にするのではない隊員の生活に密着した貴重な動画を流している。更にスマートフォンで自衛隊の活動をすぐに確認できる静岡地本公式ツイッターでは、営業部長兼ねて応援団長のマスコットキャラクター「しずぼん」が、静岡所を訪れて事務所内を紹介する動画も公開し、新しい生活様式に合わせたPRを行った。

一方、ステイホームにおいては、3密防止を踏まえた新たな募集活動の準備等に取り組み、ネットをはじめ映像伝送のあり方など新分野の知識を向上させた。日々さまざまな制約が生じているものの、所員は状況に応じたPRの方法を見直す良い機会と捉えて、自己の能力向上をはじめ前向きな気持ちで取り組んでいる。

今後も静岡地本は、新しい生活様式を実践していくとともに、新たな情報発信にも取り組み、より一層自衛隊の魅力をPRしていく。